

くつろいだ雰囲気で まちづくりを語ろう

市民組織 「まちばる」8日設立

札幌の川口さん



くつろいだ雰囲気で、

市民がまちづくりを語り合う場を―と、札幌市中央区のNPO法人事務局員川口剛さん(三つが、スペインの居酒屋「バル」にちなんだ「まちばる」を発足させる。設立会は八月八日に開かれ、札幌の路面電車(市電)をテーマに話し合われる。

川口さんは、市が昨年設置した「市民自治を考える市民会議」の委員。

会議の中で、市民参加は行政と市民の双方からの働きかけが必要と痛感し、「くつろいだ雰囲気

なら、市民が行政を身近に感じられるし、アイデアも浮かぶ」と考えた。スペインでビールやコーヒーを片手に語り合う場として、生活に根ざしているバルのような集まりにしようと、「まちばる」と名づけた。

設立会は、八日午後四時から、市電を借り切り酒も交えて聞く。沿線の歴史や、今後の運営方法などについて、NPO「LRTさっぽろ」の吉岡宏高代表らが解説し、参加者が語り合う。

今後も、森林や畑など野外を会場にイベントが予定されている。参加申し込み、問い合わせは川口さんへ。ファクス613・5623か、電子メールgomachiar@yahoo.co.jpで。会員も募集している。(藤田香織里)